

川田テクノロジーズ株式会社(3443)
2025年3月期
決算説明会

2025年5月29日 15:30～



本日の内容

2 / 22

1. 2025年3月期の業績
2. 2026年3月期の業績見通し
3. 第3次中期経営計画の進捗と数値目標見直し
4. 株主還元の推移と見通し

1. 2025年3月期の業績

2025年3月期 決算のポイント

4 / 22

全体として工事が順調に進捗、期中竣工物件をはじめ設計変更も複数獲得。ソリューションも堅実な成長を続け、特に想定以上の持分法投資利益等あった経常利益以下は大幅増。売上・各利益は過去最高

(単位：百万円)

	2024年3月期		直近業績予想 ※1		2025年3月期		増減（比率）	
	実績	売上高比	金額	売上高比	実績	売上高比	対2403期	対直近予想
売上高	129,127	100.0%	130,000	100.0%	132,905	100.0%	+3,778 (+2.9%)	+2,905 (+2.2%)
売上総利益	20,098	15.6%	-	-	21,742	16.4%	+1,643 (+8.2%)	-
営業利益	8,734	6.8%	8,500	6.5%	9,684	7.3%	+950 (+10.9%)	+1,184 (+13.9%)
経常利益	10,538	8.2%	11,200	8.6%	12,616	9.5%	+2,078 (+19.7%)	+1,416 (+12.7%)
親会社株主に帰属 する当期純利益	7,541	5.8%	8,800	6.8%	11,107	8.4%	+3,565 (+47.3%)	+2,307 (+26.2%)
1株当たり当期 純利益 ※2	434.06	-	508.83	-	642.96	-	+208.90 (+48.1%)	+134.13 (+26.4%)
1株当たり 年間配当金 ※2	131.00	-	130.00	-	145.00	-	+14 (+10.7%)	+15 (+11.5%)

※1 2025/2/13付け発表値によります ※2 表示期間期首に2024/4/1付株式分割が行われたとの仮定によります

受注、財政状態、キャッシュフローの状況

大規模物件受注もあり受注好調、発注単価上昇もあり期末残高は過去最高の水準。自己資本比率高まる

◎受注 ※

(単位：百万円)

	2024年 3月期	2025年3月期 中間期	2025年 3月期	増減 (通期比較・率)
前期から繰越	154,364	154,730		+365 (+0.2%)
期中受注	131,241	47,710	148,202	+16,960 (+12.9%)
期中販売	130,876	67,369	135,015	+4,139 (+3.2%)
期末受注残	154,730	135,071	167,917	+13,186 (+8.5%)

※ セグメント間の取引は相殺消去しておりません

◎キャッシュフロー

(単位：百万円)

◎総資産・純資産・自己資本比率

(単位：百万円)

	2024年3月期	2025年3月期	増減(率)
営業	13,320	9,839	△3,481 (△26.1%)
投資	△2,553	△ 2,981	△428 (△16.8%)
財務	△10,337	△ 8,659	+1,677 (+16.2%)

	2024年3月期	2025年3月期	増減 (率・ポイント)
総資産	160,238	165,511	+5,273 (3.3%)
純資産	82,363	91,569	+9,205 (11.2%)
自己資本比率	51.1%	55.0%	+3.9pts

各事業セグメントの概要

6 / 22

鉄 構

鋼製橋梁および建築鉄骨の設計・製作・架設据付、鋼材製品の販売



東京ゲートブリッジ（東京都）

土 木

PC橋梁、プレビーム橋梁の設計・製作・架設据付および橋梁保全工事請負



不動大橋（群馬県）

建 築

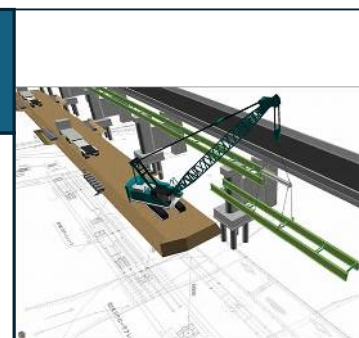
一般建築およびシステム建築の設計・工事請負



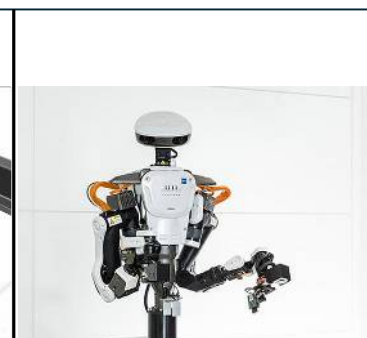
ポラテック西日本(株)滋賀工場（滋賀県）

ソリューション

①ソフトウェアの開発・販売およびシステム機器の 販売、橋梁等の構造解析および設計・製図
②各種機械装置、コンピューターシステムの開発・設計・販売およびコンサルティング
③次世代型産業用ロボット等の製造および販売



建設系3D CAD
V-nasClair



NEXTAGE

各セグメント 2025年3月期 概況

7 / 22

鉄構

鋼橋事業：新設橋梁の発注低調も大型物件受注ほか受注積み上げ。工事は順調に進捗、設計変更獲得で売上・利益増
鉄骨事業：大型受注あるも期を通じて受注低調。一部工程遅れあり売上高減少も、設計変更獲得で採算改善

→当期受注 **70,983百万円 (+6,891百万円 +10.8%)**、売上高 **63,172百万円 (+1,652百万円 +2.7%)**
営業利益 **6,274百万円 (+1,625百万円 +35.0%)**

土木

発注は前期を下回るも、新設・保全工事の受注が好調で大幅増。工事の進捗順調で売上も増加。
更新・保全物件中心に原価先行状態のもの多い。瑕疵工事の引当計上もあって、設計変更複数獲得も営業利益は減少

→当期受注 **44,137百万円 (+12,620百万円 +40.0%)**、売上高 **38,622百万円 (+3,189百万円 +9.0%)**
営業利益 **2,106百万円 (△785百万円 △27.2%)**

建築

新規大型物件受注も施工人員タイトで受注減少。設計段階にある物件多く、後半にかけ進捗本格化も売上高は減少。
売上高減のなか営業利益も減少だが、大型工事の竣工に伴う採算性改善などで、当初計画比では増加

→当期受注 **15,398百万円 (△3,537百万円 △18.7%)**、売上高 **15,473百万円 (△2,127百万円 △12.1%)**
営業利益 **1,444百万円 (△130百万円 △8.3%)**

ソリ

ソフトウェア事業：ソフトウェア事業が引き続き好調も、市況受け橋梁設計受託は減少
ロボット事業：受注・売上目標は未達。周辺サービスにも努力し赤字ながらも損益目標は達成

→当期受注 **8,053百万円 (+361百万円 +4.7%)**、売上高 **7,949百万円 (398百万円 +5.3%)**
営業利益 **2,982百万円 (+62百万円 +2.1%)**

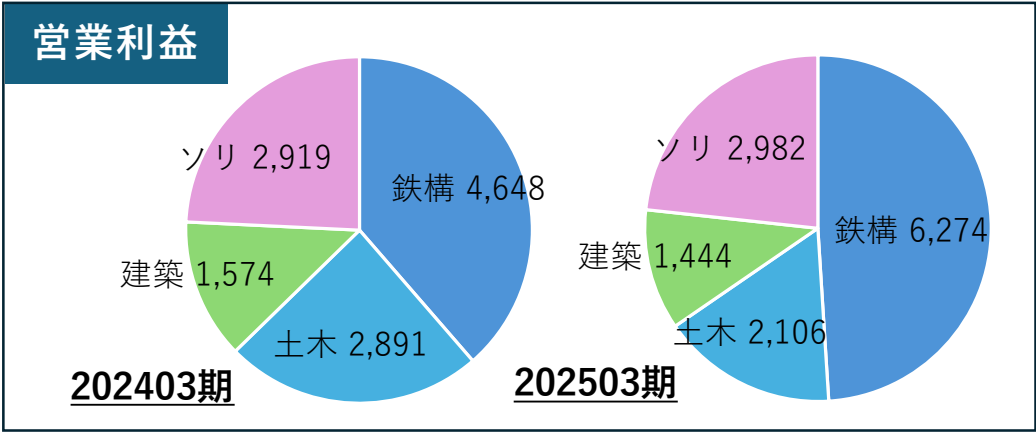
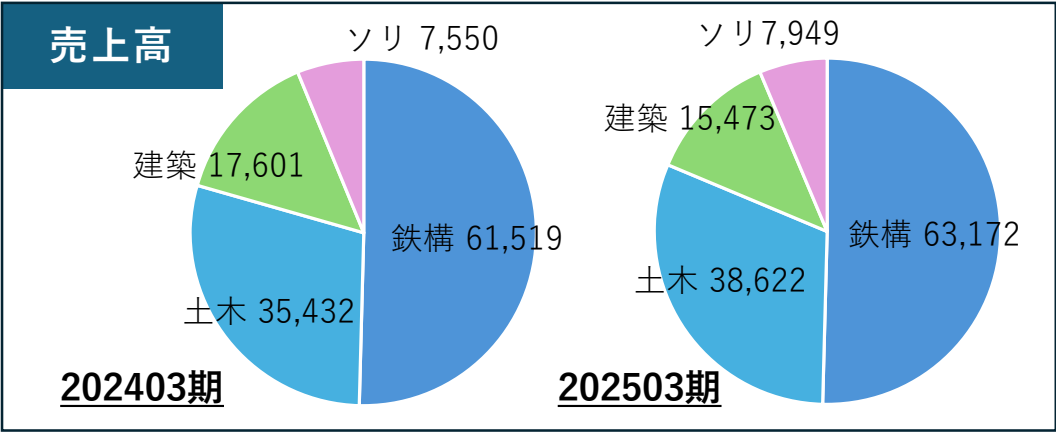
※セグメント間の取引は相殺消去しておりません

2025年3月期 セグメント別 P/Lサマリー

大型工事で設計変更獲得の鉄構セグは増収増益。引当計上のあった土木セグは増収減益、建築セグは減収減益も利益率は改善。ソリューションセグは増収増益基調を継続

(単位：百万円)

	2024年3月期			2025年3月期			増減(率・ポイント)		
	売上高	営業利益	営利率	売上高	営業利益	営利率	売上高	営業利益	営利率
■ 鉄 構	61,519	4,648	7.6%	63,172	6,274	9.9%	+1,652 (+2.7%)	+1,625(+35.0%)	+2.3pts.
■ 土 木	35,432	2,891	8.2%	38,622	2,106	5.5%	+3,189 (+9.0%)	△785(△27.2%)	△2.7pts.
■ 建 築	17,601	1,574	8.9%	15,473	1,444	9.3%	△2,127 (△12.1%)	△130 (△8.3%)	+0.4pts.
■ ソ リ ュ ー シ ョ ン	7,550	2,919	38.7%	7,949	2,982	37.5%	+398 (+5.3%)	+62(+2.1%)	△1.2pts.



※セグメント間の取引は相殺消去しておりません

2025年3月期 セグメント別 受注状況

全体として受注好調、期中受注・期末受注残高いずれも過去最高。特に鉄構・土木セグメントが強い。
しかし、受注残には建設コスト高騰の影響がある上、工期の長い物件が複数含まれる。橋梁関連事業における「新設から更新・保全へ」の市場シフトもあり、特に安定的な製作工場操業の観点からは十分な量とはいえず、当期も積極受注に努める

(単位：百万円)

	前期からの繰越			期中受注			期中販売			期末受注残高		
	2024年 3月期	2025年 3月期	増減(率)	2024年 3月期	2025年 3月期	増減(率)	2024年 3月期	2025年 3月期	増減(率)	2024年 3月期	2025年 3月期	増減(率)
鉄 構	84,990	87,561	+2,571 (+3.0%)	64,091	70,983	+6,891 (+10.8%)	61,519	63,172	+1,652 (+2.7%)	87,561	95,372	+7,810 (+8.9%)
土 木	49,100	45,184	△3,915 (△8.0%)	31,516	44,137	+12,620 (+40.0%)	35,432	38,622	+3,189 (+9.0%)	45,184	50,700	5,515 (+12.2%)
建 築	16,526	17,862	+1,335 (+8.1%)	18,936	15,398	△3,537 (△18.7%)	17,601	15,473	△2,127 (△12.1%)	17,862	17,788	△74 (△0.4%)
ソ リ	3,355	3,498	+142 (+4.2%)	7,692	8,053	+361 (+4.7%)	7,550	7,949	+398 (+5.3%)	3,498	3,603	+104 (+3.0%)

※セグメント間の取引は相殺消去しておりません

2. 2026年3月期業績の見通し

2026年3月期 業績見込み（全体）

建設コスト高騰、労働力タイト化などを背景に受注競争激化・工程遅れなどを懸念。現時点で合理的に想定できる設計変更ほか一定の努力目標も織り込むが、売上高、各段階利益ともに前期比で減少の見通し

（単位：百万円）

	2024年3月期	2025年3月期	2026年3月期 (見込) ※2	増減額(率)	
				24-25年	25-26年 (見込)
売上高	129,127	132,905	125,000	+3,778 (+2.9%)	△7,905 (△5.9%)
営業利益	8,734	9,684	7,800	+950 (+10.9%)	△1,884 (△19.5%)
経常利益	10,538	12,616	9,600	+2,078 (+19.7%)	△3,016 (△23.9%)
親会社株主に帰属する 当期純利益	7,541	11,107	7,500	+3,565 (+47.3%)	△3,607 (△32.5%)
1株当たり 当期純利益 ※1	434.06	642.96	431.42	+208.90 (+48.1%)	△211.54 (△32.9%)

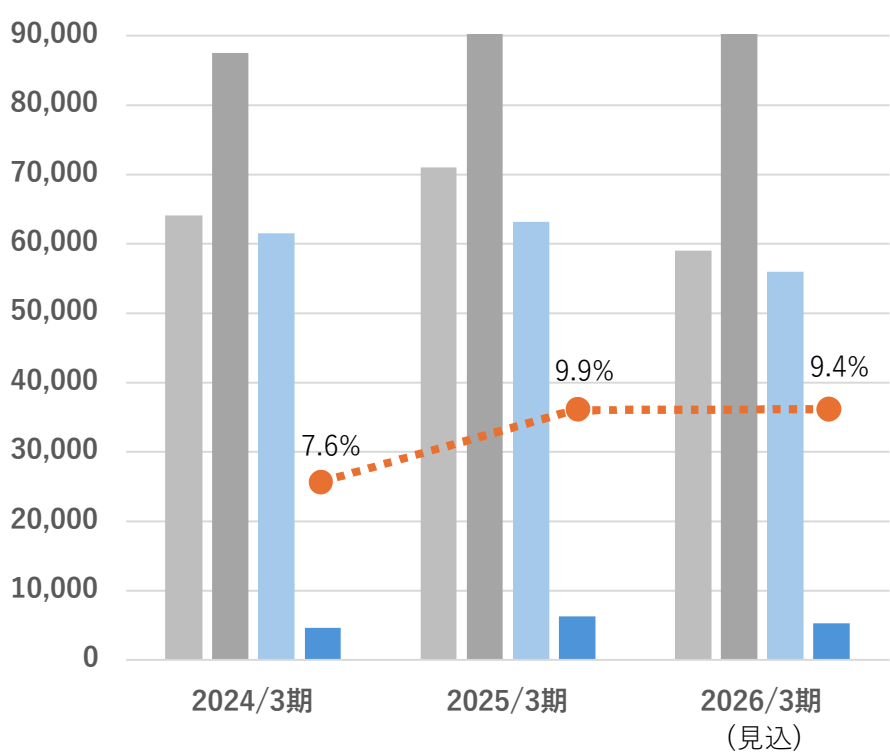
※1 2024/4/1付株式分割が表示期間期首に行われたとの仮定によります ※2 2025/5/13発表値によります

2026年3月期 業績見込み ①鉄構セグメント

鋼橋事業：新設市場は長期的に減少傾向も補修・保全を含めた足元の市場は金額ベースで拡大。老朽化インフラ更新需要継続期待、数年後に新設ビッグプロジェクトも本格化。手持ち工事は順調な進捗を見込むが、工場の効率的な操業水準確保には製作予定量がやや不足で売上減少見通し。「新設から更新・保全へ」のシフトに積極対応図る

鉄骨事業：手持ち物件は全体として順調な進捗を見込むも、発注計画の時期見直しや工程遅れなどが一部で見られる。首都圏再開発・大阪IRなど大型物件計画多いが、ファブ間の受注競争懸念。採算性の維持向上に努める

(単位：百万円)



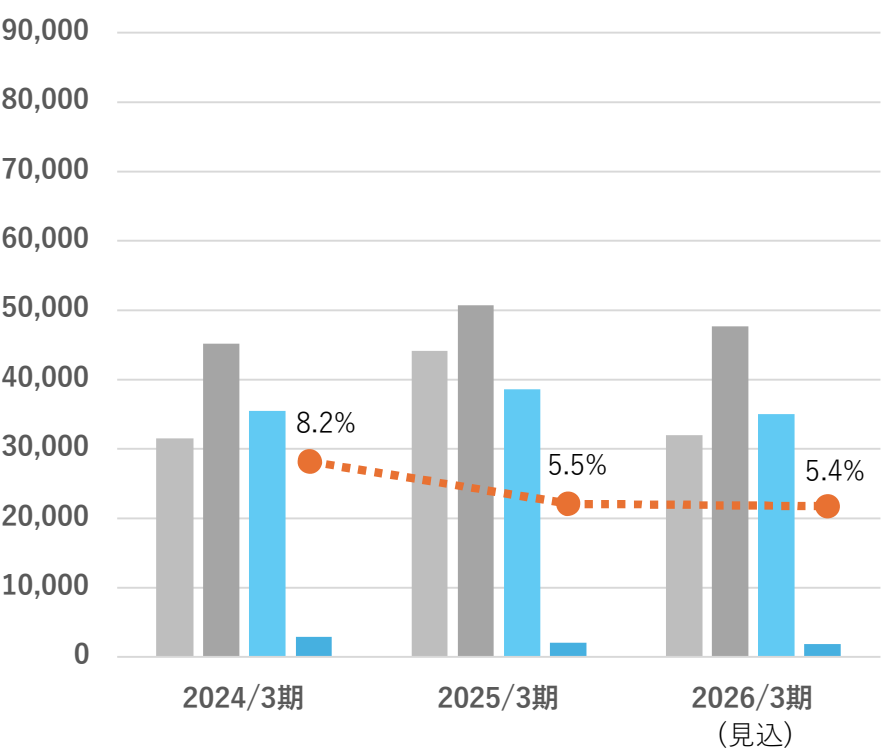
	2024年 3月期	2025年 3月期	2026年 3月期 (見込)	増減(率)	
				24-25年	25-26年 (見込)
受 注 高	64,091	70,983	59,000	+6,891 (+10.8%)	△11,983 (△16.9%)
期 末 受 注 残 高	87,561	95,372	98,372	+7,810 (+8.9%)	2,999 (+3.1%)
売 上 高	61,519	63,172	56,000	+1,652 (2.7%)	△7,172 (△11.4%)
営 業 利 益	4,648	6,274	5,250	+1,625 (+35.0%)	△1,024 (△16.3%)
営 業 利 益 率	7.6%	9.9%	9.4%	+2.3pts	△0.5pts

※棒グラフは左から受注高、期末受注残高、売上高、営業利益、折線グラフは営業利益率を示します。セグメント間の取引は相殺消去しておりません

2026年3月期 業績見込み ②土木セグメント

PC橋梁市場も長期的には緩やかな減少傾向。建設コスト高騰など背景に高速道路会社の大規模床版取替工事の発注は一服も、今後も一定水準で継続の見通し。受注力強化に向け体制充実を図る。更新・保全物件中心に原価先行多いが、設計変更獲得などで採算性向上目指す

(単位：百万円)



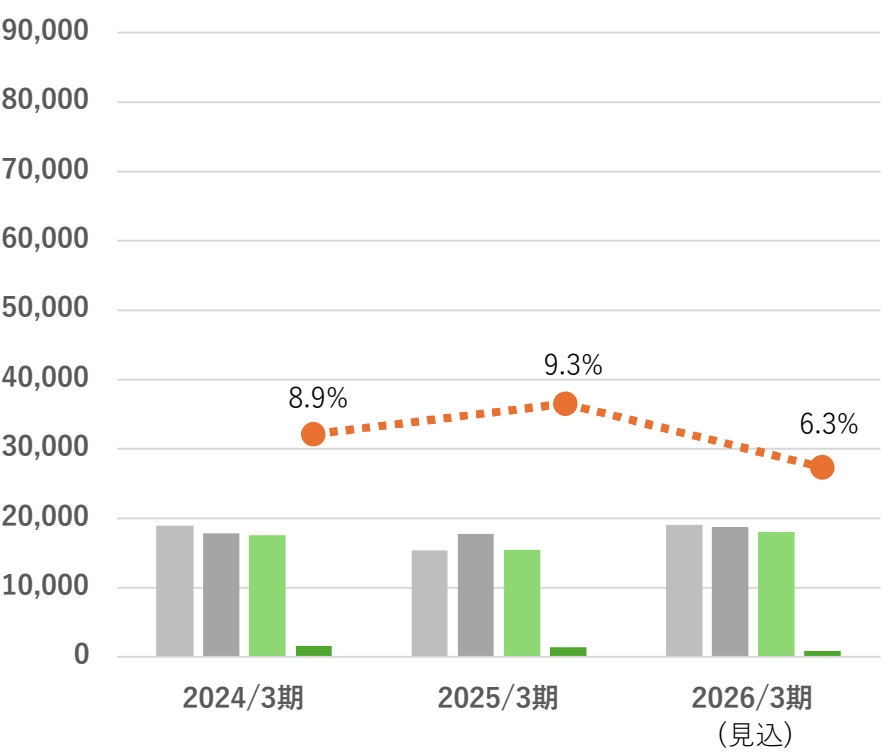
	2024年 3月期	2025年 3月期	2026年 3月期 (見込)	増減(率)	
				24-25年	25-26年 (見込)
受 注 高	31,516	44,137	32,000	+12,620 (+40.0%)	△12,137 (△27.5%)
期 末 受 注 残 高	45,184	50,700	47,700	+5,515 (+12.2%)	△3,000 (△5.9%)
売 上 高	35,432	38,622	35,000	+3,189 (+9.0%)	△3,622 (△9.4%)
営業利益	2,891	2,106	1,900	△785 (△27.2%)	△206 (△9.8%)
営業利益率	8.2%	5.5%	5.4%	△2.7pts	△0.1pts

※棒グラフは左から受注高、期末受注残高、売上高、営業利益、折線グラフは営業利益率を示します。セグメント間の取引は相殺消去しておりません

2026年3月期 業績見込み ③建築セグメント

「多層階倉庫」から「大規模低層倉庫」へ需要シフトの兆し。当社システム建築は後者に優位性あり、好機と捉え積極受注目指す。建設コスト高騰の影響のほか、チャレンジ案件で採算性を保守的に見積もる手持ちの多層階倉庫物件の当期進捗等で、売上高増加も営業利益減少見込む。VE・CD提案など通じ採算性向上に努める

(単位：百万円)



	2024年 3月期	2025年 3月期	2026年 3月期 (見込)	増減(率)	
				24-25年	25-26年 (見込)
受 注 高	18,936	15,398	19,000	△3,537 (△18.7%)	+3,601 (+23.4%)
期 末 受 注 残 高	17,862	17,788	18,788	△74 (△0.4%)	+999 (+5.6%)
売 上 高	17,601	15,473	18,000	△2,127 (△12.1%)	+2,526 (+16.3%)
営業利益	1,574	1,444	850	△130 (△8.3%)	△594 (△41.2%)
営業利益率	8.9%	9.3%	4.7%	+0.4pts	△4.6pts

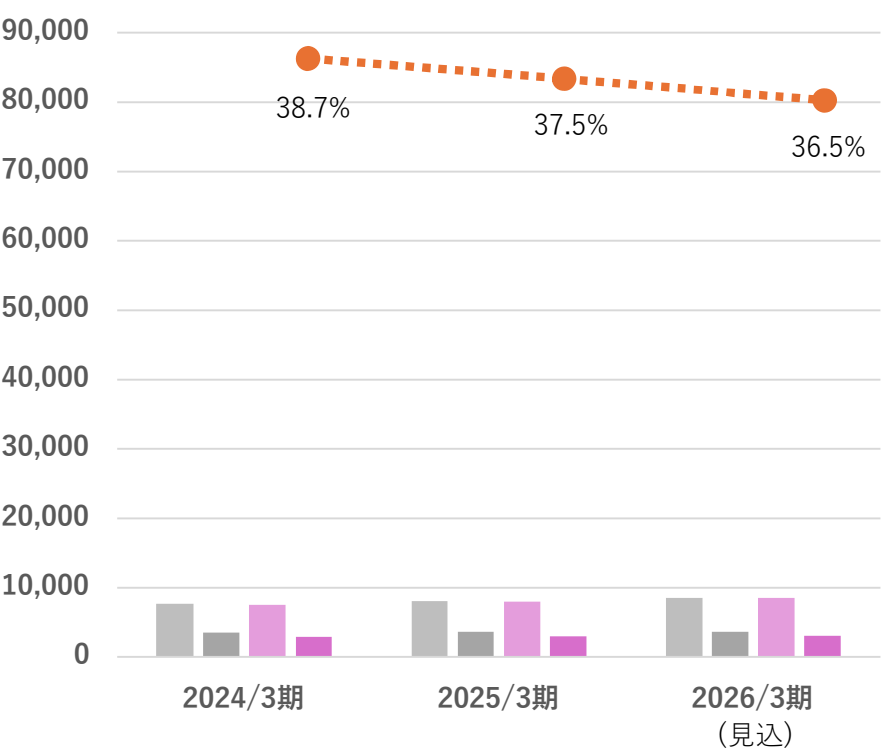
※棒グラフは左から受注高、期末受注残高、売上高、営業利益、折線グラフは営業利益率を示します。セグメント間の取引は相殺消去しておりません

2026年3月期 業績見込み ④ソリューションセグメント

ソフトウェア関連事業：自社製品3D-CAD・クラウドサービスの好調見込む。
「公共インフラの問題をDXでなんとかする」をキャッチフレーズに、人材強化や民間企業への製品展開・ソリューション提供で「情報サービスコンサルタント」への進化目指す

ロボット関連事業：工場等の省人化・自動化市場の潜在需要大きい。引き続き黒字化目指す。

(単位：百万円)



	2024年 3月期	2025年 3月期	2026年 3月期 (見込)	増減(率)	
				24-25年	25-26年 (見込)
受 注 高	7,692	8,053	8,500	+361 (+4.7%)	+446 (+5.5%)
期 末 受 注 残 高	3,498	3,603	3,603	+104 (+3.0%)	△0 (△0.0%)
売 上 高	7,550	7,949	8,500	+398 (+5.3%)	+550 (+6.9%)
営業利益	2,919	2,982	3,100	+62 (+2.1%)	+117 (+4.0%)
営業利益率	38.7%	37.5%	36.5%	△1.2pts	△1.0pts

※棒グラフは左から受注高、期末受注残高、売上高、営業利益、折線グラフは営業利益率を示します。セグメント間の取引は相殺消去しておりません

3. 第3次中期経営計画の進捗と数値目標見直し

第3次中期経営計画(2024年4月～2026年3月)の概要

17 / 22

位置付け

KAWADA VISIONの実現に向けて、川田グループの持続的な成長と持続可能な社会の実現の両立を目指していく。事業環境が大きく変化する中、真摯に経営課題と向き合い、迅速かつ柔軟に解決することで、レジリエント企業を目指す

経営課題

資本コストを意識し、
①ROE向上を目指した経営を推進するとともに、それを支える
②経営基盤の強化を図る

①ROE向上

基幹事業における収益力強化、成長事業における事業規模拡大、資本効率を重視した経営にシフト

②経営基盤強化

人材確保・人材育成とDXによる生産性向上、IPランドスケープの推進、持続可能な社会の実現に向けたサステナブル経営の推進

<テーマ> 『KAWADA VISION』の実現を目指し、レジリエント企業に変貌する

基本方針	基幹事業の持続的成長	100年かけて培ってきた技術を軸に、ビッグプロジェクトに参画するとともに、拡大している橋梁の保全・補修市場への対応強化
	成長事業の拡大・創出	成長が見込まれる事業分野に経営資源を投入するとともに、「川田ならではの」の価値創造により新規事業を創出
	サステナビリティ経営の推進	グループ理念である「安心して快適な生活環境の創造」のもと社会課題の解決を起点とした責任ある企業経営を貫き中長期的な企業価値の向上
	資本効率経営への転換	ROE経営を推し進めるとともに、「八方よし」の精神での企業経営を継続

数値目標の一部見直し（上方修正）

18 / 22

	第1次中計 (実績)	第2次中計 (実績)	第3次中計 (当初)	第3次中計 (2024/5/14修正)	第3次中計 (2025/5/13修正)
売上高 (3か年累計)	3,526億円	3,373億円	3,910億円以上	3,910億円以上	3,910億円以上
営業利益 (3か年累計)	172億円	170億円	186億円以上	223億円以上 (+19.9%)	261億円以上 (+17.0%)
当期純利益① (3か年累計)	165億円	157億円	156億円以上	183億円以上 (+17.3%)	261億円以上 (+42.6%)
当期純利益② (3か年累計、持分法 投資損益除く)	109億円	109億円	121億円以上	146億円以上 (+20.7%)	196億円以上 (+34.2%)
ROE① (最終年度)	11.3%	5.8%	8.0%以上	8.0%以上	8.0%以上
ROE② (最終年度、関係会社 株式見合い除く)	15.8%	7.3%	11.0%以上	11.0%以上	11.0%以上
株主還元 (3か年平均)	8.5%	16.0%	30.0%目途	30.0%目途	30.0%目途

各年度における数値目標の進捗状況

(単位：億円)

	修正後 目標 (2025/5)	3か年状況								
		2024年3月期 (1年目)		2025年3月期 (2年目)			2026年3月期 (3年目・見込)			
		実績	進捗率	実績	累計	進捗率	見込	累計	進捗率	(参考) 当初計画比
売上高 (3か年累計)	3,910	1,291	33.0%	1,329	2,620	67.0%	1,250	3,870	99.0%	
営業利益 (3か年累計)	261	87	33.5%	96	184	70.6%	78	262	100.5%	141.0%
当期純利益① (3か年累計)	261	75	28.9%	111	186	71.5%	75	261	100.2%	167.6%
当期純利益② (3か年累計、持分法投資 損益除く)	196	58	29.7%	80	138	70.8%	58	196	100.4%	162.6%
ROE① (最終年度)	8.0%	9.6%	-	12.8%	-	-	8.0%	-	達成見通し	
ROE② (最終年度、関係会社株式 見合い除く)	11.0%	13.8%	-	17.0%	-	-	11.1%	-	達成見通し	
配当性向 (3か年平均)	30%目途	30.2%	-	29.6%※	-	-	30.1%	30.0%※	達成見通し	

※配当方針に基づき「非経常的な特殊要因に基づく損益」を配当原資から除いて計算しております

資本政策の進捗状況、その他の取り組み

20 / 22

◎中計資本政策の進捗

取り組み目標

2年目まで実績

利益水準の向上	営業キャッシュフロー創出 3年間で200億円 ※但し、事業にかかわる資金の動きは除外	192億円（1年目：108億円、2年目：84億円） ※事業にかかわる資金の動きを除外しているため、 CSの値とは異なります
成長投資	基幹事業の更なる強化、成長事業への投資 設備投資100億円	設備投資65億円 （1年目：38億円、2年目26億円）
株主との対話	株主総会、株主通信、 決算説明会、1-on-1 ミーティング	株主総会2回、統合報告書初発行、株主通信4通 決算説明会4回、機関投資家向け工場見学会1回 1-on-1ミーティングほか計173回

◎その他の取り組み

川田テクノシステム(株) 完全子会社化	2024年3月、株式買い取りにより100%子会社化
株式分割（1：3）	2024年4月1日を効力発生日に、普通株式を1：3の割合で分割
配当額に下限を設定 ※3次中計期間中に係る	2024年5月、配当方針を一部変更し第3次中計期間に係る年間配当額に下限を設定
中間配当制度導入	2024年6月、機動的な資本政策を図るため中間配当制度を導入
自己株式消却	2025年3月、400,000株（消却前発行済み株式総数に対する割合：2.25%）を消却

4. 株主還元の推移と見通し

株主還元の推移と見通し

22 / 22

当期配当は 年間130円／株 を見込む。今後も株主還元と企業の持続的成長の両立に努めてまいります

■配当方針（2024/11/12～）

- ・ 企業価値向上とともに株主の皆様への利益還元を最重要施策の一つとして認識
- ・ 親会社株主に帰属する当期純利益から非経常的な特殊要因による損益（右参照）を除外し、連結配当性向30％程度を目途に安定的な配当を継続して実施することを基本方針
- ・ 第3次中計の残り期間（2025年度）に係る1株当たり配当金の下限を年間90円

Q.「非経常的な特殊要因による損益」とは？

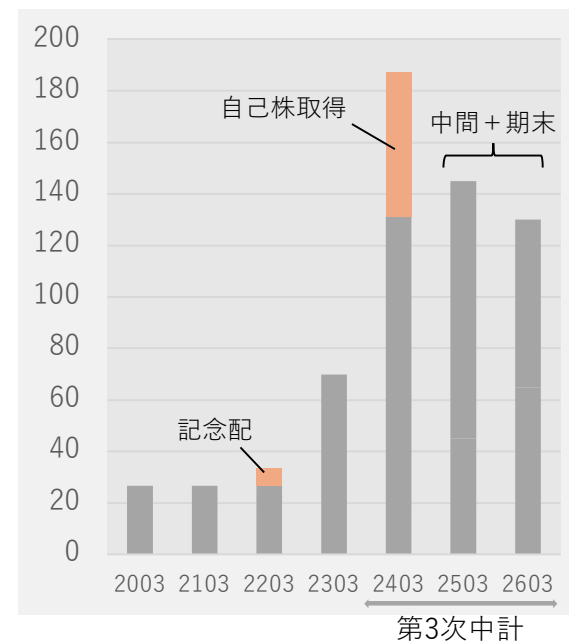
- A. 通常の事業活動から生じたものではない、特に将来に亘りキャッシュインフローを期待できない会計上の利益
- ※必ずしも、P/L「特別区分」に計上された損益を意味しません

	2024年3月期	2025年3月期	2026年3月期 (当期・見込)
当 期 純 利 益	7,541百万円	11,107百万円	7,500百万円
1 株 当 た り 当 期 純 利 益 ※ 1	434.06円	642.96円	431.42円
1株当たり配当額※1	131円	145円 (うち、中間45円)	130円 (うち、中間65円)
配 当 性 向	30.2%	29.6% ※2	30.1%
自 己 株 式 取 得	999百万円	-	未定
自己株式取得を含めた 還 元 性 向	43.2%	29.6% ※2	30.1%

※1 表示期間期首に2024/4/1株式分割があったものとして計算しています

※2 配当方針に基づき「佐藤工業による持分法新規適用に伴う時価評価差額」および「繰延税金資産の回収可能性の見直しに伴う法人税等調整額」を除いて計算しています

■一株当たり株主還元の推移 ※1 (単位：円)



(参考) 過去5年間の主な業績指標

(単位：百万円)

	2021年3月期	2022年3月期	2023年3月期	2024年3月期	2025年3月期
売上高	115,545	103,760	118,086	129,127	132,905
営業利益	5,565	6,412	5,025	8,734	9,684
経常利益	8,048	7,689	6,298	10,538	12,616
親会社株主に帰属する当期純利益	6,340	5,176	4,231	7,541	11,107
1株当たり当期純利益(円) ※	359.10	292.54	239.94	434.06	642.96
自己資本当期純利益率(%)	10.1	7.6	5.8	9.6	12.8
総資産経常利益率(%)	5.6	5.5	4.3	6.5	7.7
売上高営業利益率(%)	4.8	6.2	4.3	6.8	7.3
総資産	147,408	133,337	162,158	160,238	165,511
純資産	66,964	71,921	76,697	82,363	91,569
自己資本比率(%)	44.8	53.2	46.6	51.1	55.0
1株当たり純資産(円) ※	3,740.50	4,009.61	4,288.11	4,754.54	5,238.20
営業活動によるキャッシュフロー	△2,547	20,391	△9,673	13,320	9,839
投資活動によるキャッシュフロー	△4,183	△1,948	△1,504	△2,553	△2,981
財務活動によるキャッシュフロー	8,220	△15,811	12,213	△10,337	△8,659
1株あたり年間配当金(円) ※	26.67円	33.33円 (うち記念配当6.67円)	70円	131円	145円 (うち、中間期45円)

※ 表示期間期首に2024/4/1株式分割があったものとして計算しています

本資料に記載される業界、市場動向または経済情勢等に関する情報は、現時点で入手可能な情報に基づいて作成しているものであり、当社がその真実性、正確性、合理性について保証するものではありません。また、本資料に記載される当社グループの計画、見積、予測、予想その他の将来情報については、現時点における当社の判断または考えにすぎず、実際の当社グループの経営成績、財政状態その他の結果は、経済情勢、業界の市場動向、原材料価格の変動等により、本資料記載の内容またはそこから推測される内容と大きく異なることがあります。

＜お問合せ先＞

川田テクノロジーズ株式会社 経営管理部
ir.kti@kawada.jp

